



アサヒで吸蜜するアカタテハ▼たてはちよう科 食草：ヤブマオコ

花 園に舞う蝶の美しい姿には弱々しさや自然の巧みさと華やかさがあります。それゆえ、古の頃より人の心を引き付けてきました。一枚の葉に産み付けられた卵は青虫からさなぎとなり、やがて美しい蝶へと姿を変えるのです。それは人を幻想的な世界へと誘い、命の力強さを感じさせてくれます。初夏の風が吹きそよぐ野山で、花と蝶たちの賛歌が心に響きます。



天翔るものたち

蝶

二上山の自然 1



飛ぶのが速く、いかにも南国的なアオスジアゲハ▼あけぼの科 食草：クワ

一 上山や香芝市にはおよそ六十種類の蝶が生息しています。
二 それ以外に北方系のシータテハと、南方系のナガサキアゲハ・イシガケチヨウの三種類を確認していますが、定着しているかは疑問です。山が低い割に生息している蝶の種類が多いのは、自然林がよく残っているからでしょう。



西一部のナミラゲハは小さいが美しい▼あげはちよ科 食草：ミカン類・サンショウ

旅 が好きな人はたくさんいます。蝶の世界にも旅好きな種類がいくつか知られていて、イチモンジセセリやアサギマダラがあり、特にウラナミシジミはその代表で北国へと旅を続け、やがては冬の寒さに力尽きる。そんな片道切符の旅を毎年繰り返ししているのです。この蝶はインゲン豆が大好きで、豆の花が咲く頃に出会えるでしょう。



羽化後のオオムラサキ▼たてはちよ科 食草：エノキ

日 本を代表する動植物に、キジや桜が選ばれています。そこで、国蝶を決めようという話が昭和八年に出たそうです。美しい蝶たちが候補にありましたが、一向に決まらぬままに年月が過ぎ、昭和三十一年にオオムラサキの七十五円切手が発行されました。翌年には日本昆虫学会の総会で国蝶としてオオムラサキが決まりました。

ミシハで観察するウラナミシジミしじめちよ科 食草：ハギ・クヌ



オオムラサキで観察するキタテハ▼あげはちよ科 食草：カナムグラ

世 界の探検が始まり、各地から動植物を持ち帰り研究されるようになった頃、ヨーロッパで博物学が発祥しました。日本の蝶も外国で調査されています。江戸時代が終わる二年前、フランスで第五回万国博覧会が開催され、日本からも多くの昆虫の標本が展示されました。この中から六種類の新しい蝶が報告されています。

蝶 のことを昔はカワヒラコと言
 いました。川原でヒラヒラと
 飛ぶからだといひます。カワホリ
 はコウモリからでたと。テフは
 漢字の音であり、更にテオからチ
 ヨウになったという説があります。
 蝶の方言では、かっぼ、ちよーり、
 ちゅちゅまんご、てぶら、てこな、
 などがあり、奈良や大阪ではちよ
 うちよと呼ばれています。

アサミで吸蜜するツマグロヒョウモン▼たてはちよう科 食草…スミレ類



黒いすじがよく目立つモンシロチョウ▼しろうちよう科 食草…イヌガラン科



世 界に広がりつつある蝶にモン
 シロチョウがいます。菜の花
 畑に舞う姿は今や春の風物詩とな
 りましたが、この蝶は昔から日本
 にいたのではなく、菜種などの十
 字架植物の移入と共に幼虫がつけ
 てきたと言われています。香芝市
 畑の二上山麓には既存種で日陰の
 好きなスジグロシロチョウがいて、
 うまく住み分けています。

文責・山口 龍治
 監修・山遊 舎

ギ フチョウはその土地の桜の花
 が咲く頃に現れ、短い一生を
 終えます。美しく女性的な感じな
 ので「春の女神」と呼ばれる原始的
 な蝶です。二上山にいたことは古
 くから有名で、訪れる人が絶えま
 せんでしたが、幾度か起きた山火
 事の為にいなくなると言われて
 います。大切にしないとすぐに姿
 を消す、日本特産の名蝶なのです。

タチツボスミで吸蜜するギフチョウ▼あけはちよう科 食草…カンアオイ類

